

## 令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立掛川特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	269名				

### 1. 使用状況

寄贈物品名	エアポリンフラット
使用学年及び人数	肢体不自由教育小学部(19人)、中学部(8人)、高等部(11人)計 38人
使用頻度	年間で110時間使用。
使用状況	自立活動の時間に、单元ごとに分けて、4グループが使用している。 年間で、小学部が30時間を2グループ、中学部が20時間、高等部が30時間使用している。
物品の使用による 変化や効果	<p>日常生活の中では感じることのできない、身体が浮き沈みする感覚、上下左右の揺れや傾きを感じることで、児童生徒が活動を楽しみながら、個々の姿勢を保持しようとして揺れに対して身体の余分な力を抜いて身を任せたりするなど、姿勢・運動面の目標を達成することができた。</p> <p>また、児童生徒2～3人と教員2人が乗っても安全に使用することができる大型遊具のため、友達同士で乗ることができ、一緒に乗った友達へ意識や視線を向けたり友達を誘ったりする関わりが増え、社会性の目標も達成することができた。</p>
今後の活用の 見通しや課題	<p>エアトランポリンが新しくなったことにより、送風機を止めて、ゆったりと体が沈み込んでいく感覚を味わったり、教師の働きかけに耳を傾けて意思疎通を図ったりする様子が見られ、学習効果が高まっていると実感している。</p> <p>エアトランポリンでしか得られない身体感覚への働きかける学習は、児童生徒の実態に合わせて、今後も各学部やグループの年間指導計画の中で位置づけて取り組んでいきたい。また、身体が大きくなった高等部の生徒でも使用することができ、学習効果が高いと感じる。使用方法を守り、大切に安全に使用していきたい。</p>
その他 希望や所感など	<p>今回、エアトランポリンを御寄贈いただいたが、空気が一杯に入った中での弾むような反発力の強い感覚であったり、逆に空気が抜けていく中での体が沈み込んでいくような感覚だったりといったことへの歓喜や不安な表情など、普段、車いすに乗っている状況だけでは見ることができないような、様々な表出する姿を見ることができました。御寄贈いただき、本当にありがとうございます。</p>

## 2. 活用の様子



一人でバランスをとりながら乗ることに繰り返し取り組んだあとは、友達と一緒に乗る活動に取り組みました。一人のときは、違った揺れや傾きが感じられてびっくりしましたが、友達や教師と一緒に乗れることで楽しみながら学習に取り組むことができました。



エアトランポリンに身体を預けたり自分で身体を揺らしたりして笑顔で活動することができました。エアーを調整しながらの浮き沈みに対して、手や足を動かしたり身体の向きを変えたりしてバランスをとる姿も見られました。広さがあるので、動いても安心して乗ることができました。



大人がジャンプをして大きい揺れを作っても安心して乗ることができました。小さい揺れも大きい揺れも、一緒に乗る友達と楽しむことができました。児童生徒に合わせて、教師が縦揺れ、横揺れなど意図的な揺れを作ることでも学習効果が高まりました。